

防災の主流化 ～国際会議を通じた貢献～

ICHARM は、世界水フォーラム、アジア太平洋水サミットなどの様々な国際会議におけるセッションの主催や発表、特に 2023 年 2 月には我が国 2 回目となる「第 9 回国際洪水管理会議 International Conference on Flood Management (ICFM9)」を主催するなど、国際会議を通じた防災の主流化への貢献を積極的に行いました。

a) World Water Forum

世界水フォーラム（World Water Forum: WWF）は、国際 NGO である世界水会議（World Water Council: WWC）と開催国の主催により 3 年に一度開催される、水に関する世界最大級の国際会議です。水に関する様々なステークホルダーが世界中から集まり、水災害、衛生、ガバナンス、ファイナンスなど多様な観点から議論が行われます。WWF では、すべての人が参加できるフォーラムと各国政府機関からの閣僚会議、水に関するエキシビションによって主に構成されています。

ICHARM は 2016 年以降、以下の 2 回の WWF に参画してきました。

○第 10 回（2024 年 5 月 インドネシア・バリ）

WWF10 は、「Water for Shared Prosperity（繁栄を共有するための水）」のテーマのもと、160 か国から約 64,000 人が参加しました。ICHARM は、テーマ別プロセスの 6 つのサブテーマのうち、テーマ 3「Disaster Risk Reduction and Management（災害リスクの軽減と管理）」をサブテーマコーディネーターとして統括しました。テーマ 3 においては 5 つのサブテーマ（統合的洪水対策及び管理、渇水対策及び管理、エコ災害リスク軽減、気候変動に対応した水インフラ、全ての人へ早期予警報）を設定し、それぞれのテーマあるいはそれらを統合した取組、他のテーマと連携した課題等合計 22 セッションを運営しました。セッション終了後には、全てのサブテーマのコーディネーターからそれぞれの議論の結果を取りまとめる統合セッションを実施し、テーマ 3 としての成果を全体会議で報告しました。

また、小池センター長他 4 名が気候変動や防災に関するセッションで、ICHARM での研究成果等を発表しました。



写真 1, 2 統合セッションで発表する小池センター長、全体会議での報告

○第 8 回（2018 年 3 月 ブラジル・ブラジリア）

WWF8 は、「Sharing Water（水の共有）」のテーマのもと、世界 172 か国より 12 万名以上が参加する盛大な国際イベントとなりました。また、3 月 21 日午後には特別セッション「第 7 回から第 8 回世界水フォーラムまで：Implementation Roadmap の 3 年間」が開催されました。第 7 回世界水フォーラム (WWF7) の中でも主要な Thematic Process の一つである、Adapting to change: Monitoring risk and uncertainty for resilience and disaster preparedness について、 ICHARM はその取りまとめ役である Champion の役割を果たし、セッションの運営、議論の取りまとめに大いに貢献しました。



写真 3, 4 発表を行う小池センター長(左)と池田上席研究員(右)

b) 第 9 回洪水管理国際会議(ICFM9)の主催

洪水管理国際会議（ICFM）は 3 年ごとに開催され、洪水に関する様々な問題を議論し、学術的・分野横断的に大きな影響を与えることを目的にしています。



ICHARM は、国土交通省と政策研究大学院大学（GRIPS）と協力して第 9 回洪水管理国際会議（9th International Conference on Flood Management:ICFM9）を、2023 年 2 月 18 日にはハイレベルシンポジウムを GRIPS で、19～22 日には本会議をつくば国際会議場でそれぞれ開催しました。なお、日本での開催は、第 5 回（2011 年東京）に ICHARM が主催して以降、12 年ぶりとなります。

本会議には日本含めて 41 の国・地域から、合計 394 人の洪水に関する専門家（日本から 212 名、アジアから 100 名、世界から 78 名（不明 4 名））が参加しました。本会議は、全体会合（Plenary session）を 4 セッション、分科会（Parallel session）を 24 セッション開催し、発表者は、分科会での口頭発表 143 編、ポスター発表 48 編となりました。また、横断的テーマを含む 5 つの特別セッションを開催するとともに、洪水に関する民間企業の技術を紹介する「技術展示ブース」を設置し、8 社・団体が出展を行いました。

さらに、1 日目の午後には一般公開シンポジウム「君は想定外の洪水から生き残れるか」を開催しました。以下、主な内容の報告です。



写真 5 開会式後の集合写真

開会式では、ICFM Ad Hoc Committee の議長である Prof. Slobodan Simonovic が主催者を代表して開会挨拶を行い、次いで、土木研究所の藤田光一理事長、および国土技術政策総合研究所の奥村康博所長からそれぞれ挨拶を行いました。最後に、開催地であるつくば市を代表し、五十嵐立青市長からウェルカムスピーチが述べられました。



開会あいさつに続き、竹内邦良山梨大学名誉教授に「ICFM Lifetime Achievement Award」が授与されました。次いで、東北大学理事・副学長（研究担当）、および ISC（国際科学委員会）の次期 Vice President である小谷元子教授から、“The responsibility of science, entrusted to us by society” と題し、オンラインでの基調講演が行われました。

以降、3 日間にわたり、プレナリーセッション 1～4 と、パラレルセッションを実施しました。

昼食会場兼休憩会場でもある多目的ホールでは、洪水に関する民間企業の技術を紹介する「技術展示ブース」が設置され、8 社・団体が出展を行いました。ポスター発表に関しては、1、2 日目に「Poster Indexing」および「Poster Viewing」を開催しました。

最終日の閉会式では、国土交通省水管理・国土保全局の草野慎一 審議官から基調講演をいただいた後、Prof. Slobodan Simonovic による「ICFM9 Erich Plate Best Student Poster Award」の授賞式が行われました。次いで、小池俊雄センター長から「Statement of ICFM9」案が参加者に提示されるとともに、Prof. Simonovic に ICFM を引き継ぐことを象徴する「トーチ」が渡され、Prof. Simonovic および Institute for Catastrophic Loss Reduction (ICLR) の Executive Director である Prof. Paul Kovacs から、次回 ICFM10（2026 年夏）のホストを ICLR が務めることが発表されました。

21 日午後と 22 日は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、防災科学技術研究所（NIED）、国土交通省各河川事務所のご協力を頂き、希望者による現地視察を実施しました。

以上、4 日間にわたった ICFM9 は、天候にも恵まれ無事に終了しました。

より詳細な報告については、土木研究所資料第 4441 号や ICFM ホームページ をご覧ください。

- 土木研究所第 4441 号 ICFM9 実施報告書

<https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/pdf/2023/4441.pdf>

- ICFM: <https://www.icfm.world/ICFM-Conferences/ICFM9>

写真 6 「ICFM Lifetime Achievement Award」授与式



写真 7 「ICFM9 Erich Plate Best Student Poster Award」授賞者



写真 8 手渡されたトーチ

c) アジア太平洋水サミット(Asia Pacific Water Summit:APWS)

アジア太平洋水サミット（APWS）は、同地域の政府首脳など、最高レベルの政策・意思決定者に対し、水の視点から、持続的な発展のための針路を定める機会を提供するとともに、具体的な行動、問題の解決方法、新たな手法を共有することを目的として開催されています。APWS は、アジア太平洋水フォーラム事務局（APWF）によって主催され、2007 年に日本・別府で第 1 回、2013 年にタイ・チェンマイで第 2 回が開催されました。

第 3 回目の APWS は、2017 年 12 月 11 日から 12 日の 2 日間、ミャンマーのヤンゴンで開催されました。ICHARM は 11 日の午後に、ICIMOD、SPC、HELP との共催でセッション「気候変動下の水と災害－山岳から島嶼まで－」を開催しました。第 1 部では東ティモールの José Ramos-Horta 上級大臣（元東ティモール大統領、1996 年ノーベル平和賞を受賞）、石井啓一国土交通大臣を含むハイレベル・リーダーによる基調講演、第 2 部ではアジア太平洋地域 7 か国からの気候変動下における水と災害についての国別発表、第 3 部では小池 ICHARM センター長とミャンマー水文気象局 Kyaw Moe Oo 局長を共同議長としたパネルディスカッションをそれぞれ行いました。12 日の午後には、本セッションの成果について池田上席研究員から報告がなされ、その後、閉会式でヤンゴン宣言が採択されました。



写真 9 石井国土交通大臣による開会挨拶



写真 10 小池センター長司会によるパネルディスカッション

第 4 回目の APWS は、2022 年 4 月 23～24 日に熊本市において開催されました。ICHARM は、分科会「水と災害/気候変動」、特別セッション「ショーケース」、統合セッション「科学技術」の企画・運営・取り纏めを担当し、特に「熊本宣言」において首脳から要請された「分野横断的な意思決定において、科学技術がどのような役割を果たすべきか」の答えとして、「水循環のコンジリエンスの促進」、「ファシリテーターの育成」、「エンドツーエンドの取り組みの推進」を取りまとめ、「議長サマリー」への反映に貢献しました。



写真 11 特別セッション「ショーケース」参加者写真



写真 12 科学技術統合セッションの参加者